

地域医療構想推進シート

平成 30 年度

区域名 中空知

1 地域医療構想の実現に向けた取組の方向性

医療機関の機能(診療科)や体制(救急医療体制等)が一部重複していることによる役割分担等に向けた取組	現状・課題	救急医療や一部の診療科において中核病院に過度の負担が生じる状態となっており、「かかりつけ医」の普及や病診連携・病病連携による医療資源の有効活用が必要である。
	目指す姿	切れ目のない医療提供体制を構築するため、適切な役割分担や連携体制の構築、医療従事者の確保について、地域センター病院である砂川市立病院を始めとして圏域内の各医療機関による協議を進める。
急性期医療を受けた後の患者の受け皿となる医療機能(回復期病床)の確保に向けた取組	現状・課題	一部の医療機関において急性期病床から回復期病床への転換が行われているが、今後、高齢化の進行に伴い、急性期医療を受けた後の患者の在宅復帰に向けたリハビリテーションの需要増加が見込まれることから、回復期病床の不足が予想される。
	目指す姿	在宅復帰を果たすことができる医療提供体制を整備するため、基金事業を活用し、病床転換等による回復期病床の確保を図る。
限られた医療資源(病床や医療従事者等)を有効に活用するための医療機関の再編・ネットワーク化に向けた取組	現状・課題	一部の医療機関において、病床からサービス付き高齢者向け住宅への転換が行われている。また、平成27年度にICTを活用した地域包括ケアネットワークシステム(砂川みまもりんく)、平成28年度に中空知医療連携ネットワークシステム(そら-ねっと)が導入され、患者情報の共有が行われている。また、平成30年4月から一般社団法人滝川市医師会による患者情報共有ネットワークシステムが運用を開始した。
	目指す姿	患者情報共有ネットワークシステムの拡充等により、適切な医療機能の分担や、医療機関と介護事業所等の連携を推進し、地域包括ケアシステムを構築する。
高齢化の進行に伴い、住み慣れた地域や自宅での生活を支えるため、その受け皿となる在宅医療等の確保に向けた取組	現状・課題	基金事業の活用により、在宅医への支援、訪問診療ポータブル機器等の導入による在宅医療提供体制の整備が進められているものの、在宅医療を担う医師等の確保が課題となっている。
	目指す姿	基金事業を活用し、これまでの取組に加え、訪問看護ステーションの整備等により、在宅医療提供体制の充実を図る。また、在宅医療を担う人材育成や、多職種連携を推進するための研修会を実施するとともに、地域住民に「かかりつけ医」、「かかりつけ歯科医」、「かかりつけ薬局」を持つことの必要性について普及啓発を図る。
地域(市町村)における高齢者の住まいの確保等に向けた取組	現状・課題	サービス付き高齢者向け住宅、軽費老人ホームの増床、介護老人保健施設の整備等が行われているが、今後も高齢者の増加が見込まれることから、高齢者が安心して暮らせる住まいの確保について検討する必要がある。
	目指す姿	基金事業を活用し、病床機能分化により急性期病床から回復期病床への転換や一般病床から介護保険施設等への機能転換等を進め、高齢者が安心して暮らすことができる環境の整備を図る。

2 圏域内における医療機能及び他圏域との連携等の必要性

区分	指定医療機関等の名称	連携・協議が必要な圏域名 (自圏域での対応が困難な疾病等)
5 疾病	がん	がん診療連携拠点病院: 砂川市立病院
	脳卒中	急性期: 医療法人翔陽会滝川脳神経外科病院、砂川市立病院 回復期: 市立芦別病院、あかびら市立病院、医療法人翔陽会滝川脳神経外科病院、滝川市立病院、医療法人圭仁会佐藤病院、砂川市立病院、奈井江町立国民健康保険病院
	心筋梗塞等の心血管疾患	滝川市立病院、砂川市立病院
	糖尿病	【芦別市】 勤医協芦別平和診療所、医療法人北武会野口病院、市立芦別病院、橋本内科医院、藤島医院 【赤平市】 あかびら市立病院、平岸病院、佐々木内科クリニック 【滝川市】 医療法人優仁会滝川中央病院、神部クリニック、医療法人圭仁会佐藤病院、医療法人社団鈴木内科クリニック、医療法人社団新緑会文屋内科消化器科医院、滝川市立病院、医療法人圭仁会佐藤医院、医療法人社団おおい内科循環器クリニック、医療法人社団久保会久保会医院、医療法人祐仁会石田クリニック、武田医院、男澤医院、医療法人社団近藤医院、医療法人社団えべおつファミリークリニック、こしお整形外科クリニック 【砂川市】 医療法人社団細谷医院、医療法人社団明円医院、砂川市立病院、医療法人社団村山内科医院、医療法人砂川慈恵会病院 【歌志内市】 歌志内市立病院、勤医協神威診療所 【奈井江町】 医療法人社団武市内科、岸本内科消化器科クリニック、奈井江町立国民健康保険病院、医療法人社団慈佑会方波見医院 【上砂川町】 勤医協上砂川診療所、上砂川町立診療所 【浦臼町】 浦臼町立診療所 【新十津川町】 医療法人社団和漢全人会花月クリニック、空知中央病院 【雨竜町】 新雨竜第一病院
精神医療	医療法人仁恵会中野記念病院、平岸病院、滝川市立病院、医療法人優仁会滝川中央病院、医療法人圭仁会佐藤病院、にかいどうメンタルクリニック、博友会滝川メンタルクリニック、砂川市立病院、医療法人砂川慈恵会病院	
5 事業	救急医療	救急告示: 市立芦別病院、あかびら市立病院、滝川市立病院、医療法人翔陽会滝川脳神経外科病院、砂川市立病院、奈井江町立国民健康保険病院 救命救急センター: 砂川市立病院
	災害医療	災害拠点病院: 砂川市立病院
	周産期医療	周産期母子医療センター: 砂川市立病院、滝川市立病院
	へき地医療	へき地医療拠点病院: 砂川市立病院
	小児医療(小児救急医療)	小児救急医療支援事業参加病院: 砂川市立病院、滝川市立病院、あかびら市立病院
在宅	在宅医療	在宅療養支援診療所: 勤医協芦別平和診療所、医療法人社団えべおつファミリークリニック、医療法人社団おおい内科循環器クリニック、医療法人社団そらち乳腺・肛門外科クリニック、神部クリニック、上砂川町立診療所
その他	地方センター病院	なし
	地域センター病院	砂川市立病院
	地域医療支援病院	なし
	特定機能病院	なし

3 将来的に不足することが見込まれる医療機能の確保対策等

(1) 病床の現況及び2025年の見込み[医療機能別]

※医療機能別の結果は別紙参照

必要病床数 (2025(H37)年推計)		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等	合計	区域内の現況、取組の方向性等	
		124床	424床	435床	626床		1,609床		
参考	病床機能報告 ・ 意向調査	H28.7.1	26床	831床	168床	924床	68床	2,017床	病床機能報告に加え、地域の実情を適切に把握しながら、将来必要な医療機能の確保について慎重に検討を進める。
		H30.7.1	26床	772床	168床	924床	108床	1,998床	
	H28年比	0床	▲ 59床	0床	0床	40床	▲ 19床		
	2025	26床	768床	168床	933床	62床	1,957床		
	必要病床数-2025	98床	▲ 344床	267床	▲ 307床	▲ 62床	▲ 348床		

(2-①) 不足することが見込まれる医療機能の把握等

不足することが見込まれる医療機能	病床機能報告以外に、将来的に不足する医療機能(患者数)を把握する方法等
高度急性期・回復期	地域医療構想調整会議において、各病院の担っている医療機能について詳細な情報共有を行い、不足又は過剰となることが見込まれる医療機能を把握する。

(2-②) 不足することが見込まれる医療機能の確保対策(平成31年度以降の計画も含む)

No.	医療機関名	予定時期	病床機能転換の内容	整備等の概要
1	あかびら市立病院	H30. 4 H30. 10	急性期 13 床 → 回復期 13 床 基金の活用 調整会議での説明 なし あり	急性期60床のうち12床を回復期に転換(4月)。さらに1床(個室)を回復期に転換(10月)。(地域包括ケア病床計13床)
			期 床 → 期 床 基金の活用 調整会議での説明	

(2-③) 不足することが見込まれる医療機能の確保に向けた取組目標及びスケジュール

医療機能	取組目標	スケジュール									
		H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	
高度急性期・回復期	必要な病床の確保に向けた協議	→									

(3-①) 医療機関の再編・ネットワーク化に向けた動き

区分	開始時期(予定)	構成医療機関	主な目的
病院、診療所との役割分担・連携	H17	奈良江町立国民健康保険病院	平成17年度から地域センター病院との医療連携協定を締結している。
	H24	医療法人翔陽会滝川脳神経外科病院	平成24年度から、連携パスを活用し急性期治療後、当院回復期リハビリテーション病棟への転院システムを構築している。
	H30	医療法人社団和漢全人会花月クリニック	砂川市立病院に後方支援病院を担ってもらい、当院は前方医療機関として役割を果たしている。
地域医療連携推進法人			

(3-②) ICTを活用した地域医療ネットワークの整備状況(平成31年度以降の計画も含む)

No.	ネットワークの名称	整備年度	基金の活用	概要	登録団体・施設等
1	「砂川みまもりんく」 地域包括ケアネットワークシステム	H27	有り	砂川市立病院の電子カルテシステムに蓄積されているデータを各医療機関(医科・歯科)、調剤薬局、訪問看護ステーション、介護事業所、砂川市ふれあいセンター、砂川市介護福祉課、消防、などがリアルタイムに参照できることにより、地域完結型医療提供サービスが可能となる。	砂川市立病院他51施設・団体
2	「そらーねっと」 中空知医療連携ネットワークシステム	H28	有り	ICTを活用して中空知の6自治体病院で患者情報の共有を行い、患者の紹介・逆紹介を円滑に行い、効率的かつ安全な質の高い医療を提供し、検査の重複の解消等により患者の負担軽減を図る。	市立芦別病院、あかびら市立病院、滝川市立病院、砂川市立病院、歌志内市立病院、奈良江町立国民健康保険病院
3	「患者情報共有ネットワーク構築事業」 (中空知医療連携ネットワークシステム 参画事業) 一般社団法人滝川市医師会	H29	有り	ICTを活用して中空知医療連携ネットワークシステム(そらーねっと)に接続を希望する12の滝川市医師会会員で患者情報の共有を行い、患者の紹介・逆紹介を円滑に行い、効率的かつ安全な質の高い医療を提供し、検査の重複の解消等により患者の負担軽減を図る。	医療法人祐仁会石田クリニック、医療法人社団おおい内科循環器クリニック、神部クリニック、こしお整形外科クリニック、滝川耳鼻咽喉科、医療法人優仁会滝川中央病院、医療法人翔陽会滝川脳神経外科病院、にかいどうメンタルクリニック、医療法人社団新緑会文屋内科消化器科医院、脳神経よしだクリニック、医療法人優仁会若葉台病院、つつじ会中空中央病院

(3-③) 医療機関の再編・ネットワーク化等の取組目標及びスケジュール

取組目標	スケジュール								
	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37
病床機能の分化、転換に向けた協議	→								
ICTを活用した患者情報の共有施設の拡大	→								

(4) 非稼働病床への対応《平成31年度中に対応方法を検討》

年次	病床機能報告制度		圏域における対応	
	非稼働病床数	前年比	検討内容	取組内容
H28	58床			
H29	111床	53床	現状では検討なし	特になし
H30 (意向調査)	140床	29床	各医療機関の現状を把握する	圏域で情報共有を図る

4 在宅医療等の確保対策

(1) 在宅医療等の必要量

医療計画 (地域医療構想)	区分	2018年 (H30)	2019年 (H31)	2020年 (H32)	2021年 (H33)	2022年 (H34)	2023年 (H35)	2024年 (H36)	2025年 (H37)
		在宅医療等							
訪問診療	地域医療構想掲載ベース(a)			576人			601人		618人
	新たなサービス必要量(b)			114人			188人		268人
	計(a+b)			690人			789人		886人

(2) 訪問診療を実施している医療機関数

区分	H30 (H28数値)	H31 (H29数値)	H32 (H30数値)	H33 (H31数値)	H34 (H32数値)	H35 (H33数値)	H36 (H34数値)	H37 (H35数値)
施設数	22							
人口10万対	20.1							

※厚生労働省NDB(ナショナルデータベース)

(3) 在宅医療等の確保対策のスケジュール

確保対策	スケジュール								
	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37
在宅医療グループ診療運営事業の推進(一般社団法人滝川市医師会)	→								
訪問診療用ポータブル機器等整備事業(医療法人社団そらち乳腺・肛門外科クリニック)	→								
在宅医療推進事業(訪問看護ステーションの設置)(砂川市立病院)		→							
訪問診療用ポータブル機器等整備事業(医療法人北武会野口病院)		→							

5 地域(市町村)における取組

(1) 医療と介護が連携した地域包括ケアシステムの構築に向けた基本的な考え方

市町村名	「在宅医療・介護連携推進事業」の実施内容等について
芦別市	医療と介護の両方を必要とする状態の高齢者が、住み慣れた地域で自分らしい人生を最期まで続けることができるよう、地域の医師会を始め、在宅に関する医療機関等と介護サービスの事業者など、医療と介護の多職種が連携し、課題の抽出や地域資源の開発を目的とした研修の実施、また、広報やホームページを活用した市民への普及啓発など、在宅医療・介護連携の取り組みを推進する。
赤平市	介護保険事業と高齢者福祉事業の連携・連動を基本に、医療・介護の連携など、地域における様々な資源・人材・機能をリンク・連携させていくことで地域包括ケアシステムの推進を図る。
滝川市	地域包括ケアシステムの構築及び地域医療構想の推進を図るため、平成28年度から医師会、保健所、サービス事業者等の関係団体・機関との連携を図りながら、在宅医療・介護連携検討会議の設置、医療・介護関係者の多職種連携による研修会・市民講座等の開催など、在宅医療・介護サービスの提供体制の構築推進に努めているところであり、平成30年度からスタートする第7期滝川市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画においても、引き続き在宅医療・介護連携事業の推進に努める。
砂川市	地域包括ケアシステムの構築及び地域医療構想の推進を図るため、地域ケア会議等の実施を通じて、関係団体や保健所との連携を図りながら、ICTを活用したシステムの活用及び改善や医療・介護従事者による多職種連携に関する研修会を開催するなど、在宅医療・介護サービスの提供体制の構築を推進する。
歌志内市	医療と介護の両方からの支援が必要な高齢者に対して、関係者が一体となって、地域特性を加味したオリジナリティーのある支援の取り組みができるよう多職種による研修会を開催し、介護関係者と医療関係者が互いの分野の知識を共有し合い、連携を深めるとともにサービス提供体制の構築を図る。 また、事業を円滑に推進するための基礎資料として、65歳以上の在宅者を対象にアンケート調査の実施や、市内全地区の町内会活動の状況把握をし、地域包括ケアシステムの円滑な構築に向け、地域課題の明確化と施策への反映を検討する。
奈井江町	地域包括ケアシステムの構築を図るため、平成28年度から在宅医療・介護連携推進事業を実施し、町内関係機関や保健所との連携を図りながら、住民に対する相談支援、関係機関との連携、地域ケア会議等を活用した医療・介護関係者による事例検討や意見交換等を行い、在宅医療・介護サービスの提供体制の構築を推進する。
上砂川町	平成29年度から在宅医療・介護連携推進事業の実施において、町内医療機関や介護サービス事業所と連携を図りながら、町民に対する相談支援を実施している。 今後は、町内の医療・介護サービス事業所による多職種連携に関する研修会や事例検討会を開催するなど、在宅医療、介護サービスの提供体制の構築を推進する。
浦臼町	保健センターが相談窓口として住民に浸透されているため、今後も相談窓口についての周知を行っていく。ケースの相談内容に合わせた医療、介護等の情報提供を行っていく。地域支援事業の新4事業の他の事業である、生活支援体制整備事業や地域ケア会議推進事業とも関連させながら事業展開を進める。
新十津川町	町内の関係機関との連携体制を着実に構築していく。広域的な連携が必要な事柄があるため、各関係機関と協議を積み重ねていく。
雨竜町	地域包括ケアシステムの構築及び地域医療構想の推進を図るため、地域包括支援センターが町民やその家族に対する相談支援を担いながら、医療機関連携室・介護事業所と地域ケア会議を定期開催し、顔の見える関係づくりを今後も進め、個別の事例から地域の課題を共有し協議を進める。 本町では、医療機関・介護事業所は広域的に利用していることから、地区医師会、保健所の連携会議の協議の場に参加し、また近隣市町や団体が実施する研修会に参加しながら、在宅医療・介護サービスの提供体制の構築を推進する。

(2) 高齢者の住まいの確保

市町村名	取組目標		取組目標に対する達成状況
	年次	内容	
芦別市	H30	サービス付き高齢者向け住宅の整備(定員11人予定)	平成30年4月からサービス提供を開始
赤平市	H30	軽費老人ホームを20床増床予定 特別養護老人ホームの建替え整備	平成30年4月から軽費老人ホーム20床増にてサービス提供を開始 平成30年10月から特別養護老人ホームを建替え、サービス提供を開始
滝川市	H29	認知症グループホーム(18床)の整備	平成29年3月からサービス提供を開始
	H29	特別養護老人ホーム(200床)・養護老人ホーム(50床)・軽費老人ホーム(50床)の建替え整備	建替えを完了し、平成29年7月からサービス提供を開始
	H29	介護老人保健施設(70床)の整備・サービス付き高齢者向け住宅(個室44室、2人部屋4室)の整備	平成29年11月(サービス付き高齢者向け住宅は12月)からサービス提供を開始
砂川市	H29	地域密着型特別養護老人ホーム(28床)の整備	平成30年4月からサービス提供を開始
歌志内市	H28	高齢者のための安心・安全な住まいとして高齢者用住宅1棟10戸を新築	100%(1棟10戸を建設)
奈井江町	H28	高齢者の居住に配慮した住環境整備を促進	奈井江町立国民健康保険病院内にサービス付き高齢者向け住宅16戸を整備し、平成28年12月から入居を開始
浦臼町	H30	公営住宅管理の担当部局とシルバーハウジング等高齢者向け住宅についての可否について検討中	

(3)その他医療・介護従事者の確保等

市町村名	対象職種	取組内容	期待される効果等
芦別市	介護従事者	『みんなで介護を考える会(行政と市内事業所の会)』が全面的に協力し、市内で働く専門職が講師となり介護職員初任者研修を実施。市内の学校に通う学生や市民を対象に受講料の一部を助成する。	対象の中心を高校生にしたことで市内介護施設への就労につながった。第7期計画から予算付けしたことで継続的事業として人材確保に向けた取り組みとして期待される。
赤平市	介護従事者	平成29年度から赤平市社会福祉協議会で介護職員初任者養成研修を実施し、事業費を補助している。	受講者のうち、平成29年度に1名、平成30年度に2名が市内で就業しており、介護職員の就業確保が期待される。
滝川市	看護師	滝川市立病院において中学生、高校生(平成30年度は4校延べ47名参加)を対象に職場体験学習(病院)を実施する。	将来の地域医療を担う看護師の確保が期待される。
砂川市	介護従事者	市内の第一種社会福祉事業(特別養護老人ホーム・軽費老人ホーム)の介護職員初任者研修の受講料を全額助成する。	入所者に対する適切なケアが図られるとともに、介護人材の確保と安定した事業運営が見込まれる。
	看護師	看護学生修学資金貸与:養成施設の在学者に対し、卒業後に砂川市立病院で勤務することを条件に、就学に必要な資金を貸与する。平成29年度は96名に貸与した。	安定した医療従事者の確保を図ることにより、地域の基幹病院として、高度医療・特殊医療を展開し、住民の健康を守る。
	医師・医療従事者	ホームページ等による情報発信、大学、専門学校訪問(平成29年度は5校)、病院見学会(平成29年度は4回)を実施する。	医師等の医療従事者の確保が期待される。
歌志内市	介護支援専門員	困難事例等へのサポートをしていく。また、地域ケア会議において学習と連携を積み重ねていく。	市内の事業所のケアマネジャーが充足され、適切なケアプランの作成と、対象者に対応した適切な支援が展開される。

6 地域住民への広報活動

実施日	広報の種類	実施地域等	実施内容	対象人数・部数
①H29. 7 ②H30. 3 ③H30. 11	地域医療構想リーフレット	①管内医療機関・市町 ②奈井江町・浦臼町 ③芦別市・赤平市	①管内医療機関、市町にリーフレットの配付 ②③地域住民参加事業(道民笑いの日普及啓発事業)においてリーフレットの配付	①48機関・6710部 ②奈井江町・浦臼町(共催):155人 ③芦別市:39人 赤平市:71人
随時	ホームページ		中空知地域医療構想調整会議の資料等の掲載	

7 調整会議における協議等

(1)協議の状況

開催日	親会・部会の別	協議・報告事項	協議等の結果
H29.12.4	親会	・地域医療構想の推進管理 ・地域医療構想の推進に関する医療機関 ・市町村アンケート調査の概要・新公立病院改革プラン ・北海道医療計画(仮称)[素案]の概要	地域医療構想推進シートの作成については、部会等の開催に諮って作成し、親会議において合意を得ることで了承。
H30.2.22	部会	平成29年度地域医療構想推進シートの協議	平成29年度地域医療構想推進シート(案)に係る意見聴取及び協議。
H30.3.19	親会	平成29年度地域医療構想推進シートの合意	平成29年度地域医療構想推進シート(案)について合意。
H30.8.24	親会・説明会	・北海道における地域医療構想の進め方 ・道内外の地域における取組事例 ・地域医療介護総合確保基金事業(医療分) ・地域の医療機関等に関するデータ ・医療機関の勤務環境改善	左記について説明会の実施。
H30.12	意見交換会	各医療機関の地域医療に対する認識等の把握・共有	医師確保と病床機能に係る課題について共有。
H31.1	部会	平成30年度地域医療構想推進シートの協議	平成30年度地域医療構想推進シート(案)に係る意見聴取及び協議。
H31.2	親会	平成30年度地域医療構想推進シートの合意	平成30年度地域医療構想推進シート(案)について合意。

(2)「新公立病院改革プラン」の進捗状況

病 院 名	プランの概要(地域医療構想関係)	プランの進捗状況
市立芦別病院	北海道地域医療構想(中空知圏域)で掲げられた内容を踏まえつつ、前改革プランで当院の果たす役割として掲げた5項目を継続していきます。①現状の医療体制の確保②救急医療体制の確保③在宅医療の継続④地域連携機能の充実⑤地域連携パスの推進	病床利用率の改善及び安心して在宅復帰できるよう、地域包括ケア病床10床を稼働させた。医療体制を確保するため、当院独自の医師・看護師修学資金制度及び看護師就業支援金制度の活用により、医師・看護師確保に努め採用している。医療材料等の経費削減のため、全国規模のベンチマークの活用により、各品目の価格交渉を進めている。プロパー事務職員の採用について、電子カルテの導入及び患者情報共有ネットワークの導入により、ICTに精通した業者プロパー職員を配置した。地域医療連携のため、ICTを活用した患者情報共有ネットワークを構築し、医療圏域における医療機関及び歯科医院との連携を深めるとともに、今後は薬局も含め参加する予定であり、さらには、地域包括ケアシステム構築の観点から介護福祉施設ともネットワークの構築を図り、医療・福祉・介護の連携を推進する。
あかびら市立病院	患者を総合的に診療する総合内科・総合外科として、外来から入院、在宅復帰まで一貫した医療を行うとともに、小児・整形・透析医療や健診の充実を目指し、住民が安心して医療を受けられるよう、地域の基幹病院としての役割を担っていきます。急速な高齢化の進展により、年齢構成などの人口構造の変化に伴う医療・介護の需要の大きな変化が見込まれることから、できる限り住み慣れた地域に必要なサービスの提供を受けられる体制を確保することが求められ、北海道医療構想においても明らかとなった中空知医療圏における回復期病床の不足解消に向けて、病床機能の一部転換を検討し地域医療のさらなる充実に努めます。地域包括ケアシステムの実現に向けて、公的医療機関として在宅医療の中心的役割を担っていくとともに、砂川市立病院、滝川市立病院をはじめとする特定医療機能を有する病院や地域包括支援センター・介護老人福祉施設等の介護保険サービス事業者との連携強化を図るなど、地域の関係機関と一体となって、その役割を果たしていきます。	平成30年4月から一般病床60床のうち12床を地域包括ケア病床に転換し、さらに10月からは個室1床を転換し、計13床とした。また、平成31年度に向けて社会福祉士を1名増員し、地域医療連携体制を強化していく。
滝川市立病院	中空知医療圏域の中核的病院として、砂川市立病院と連携・補完し合いながら、地域内で一定の医療が完結するよう医療機能を維持することが求められている。地域で自己完結型の医療体制を維持していくためには、限られた医療資源を有効に活用し、地域住民と一体となり地域内で医療機関の連携や役割分担をより一層行い、将来に向けた体制を構築する必要がある。地域の医療機関との連携・協働を推進し、双方向に医療を提供する体制を確立すべく、市内のクリニック等の医療施設とさらに信頼関係を築き上げることが必要。	中空知自治体6病院で稼働している中空知医療連携ネットワークの利用拡大を図るため、滝川市内の病院、クリニックなどの医療機関も利用が可能になり、滝川市医師会を窓口として参画の申込を受けています。また、歯科、調剤薬局、介護施設の参画を今後順次進めます。また、平成30年度は薬剤師、作業療法士などを増員し医療の質向上及びチーム医療の充実が図られました。
砂川市立病院	砂川市及び中空知医療圏において引き続き、地域中核病院として、多様化・複雑化する地域の医療ニーズに的確に対応する。高度急性期については緊急性の高い疾患を中心に対応すると共に、大学病院等との連携を図ります。「急性期」病床は、中心的機能を担う病床として、各医療機関との連携により、中空知圏域の地域に急性期医療を提供します。「回復期」については、高齢化が進む地域住民の生活(在宅)復帰がシームレスに行われるよう支援する役割を担います。在宅医療については、今後のニーズ拡大が見込まれるものの、砂川市として十分な提供体制が構築されていない状況なので、公立病院として在宅医療に取り組んでいきます。	平成29年度においては、当院が改革プランで掲げた4つの目標 ①財務の視点「地域集各病院として急性期医療の提供」 ②顧客の視点「中空知医療圏内の医療・介護関連事業との機能分担と密なコミュニケーション」 ③業務プロセスの視点「人材確保・診療プロセスの標準化・質指標設定と可視化(院内共有)」 ④学習と成長の視点「期待人材像の明示と全職員の経営参画、全職員のモチベーション・ロイヤリティ向上、次世代(若手職員)の育成」 に関して、①・③については概ね良好なA・B評価(A評価:計画どおり進捗・B評価:課題はあるが前進)となった。 ②・④に関しては一部C評価(計画を下回る)となった。C評価についてはほぼ人的要因によるものである。目標を下回った主な項目として (1)退院支援加算件数:退院支援担当者の欠員(社会福祉士の補充を図った) (2)離職率:他医療機関への転出増(何に対して不満・不足等があるか調査を行った) (3)資格取得数:病床利用率の上昇や人員不足により、計画通りに参加できないものがあつた(職員のキャリアアップを支援していく) これらC評価に関しては上位の評価となるよう努力する。
歌志内市立病院	近隣の病院とそれぞれの役割を明確にし相互の連携強化を図ることにより、高齢化に伴い増加が見込まれる慢性期患者に対応する病院として、近隣の急性期病院及び介護施設等との連携をさらに深め入院患者の確保に努め、中空知圏域内の慢性期医療を担うとともに、市民のかかりつけ病院として、地域に根ざした安心できる医療サービスを提供していきます。	当病院は、市民の初期医療を担うほか、高齢化に伴い増加が見込まれる慢性期患者に対応する病院として、近隣の急性期病院及び介護施設等との連携を深めながら入院患者の確保に努め、中空知圏域内の慢性期医療を担い、市民のかかりつけ医として、地域に根ざした安心できる医療サービスを提供している。また、市内唯一の病院として、内科、小児科の2診療科体制、入院は医療療養病床60床で運営している。
奈井江町立国民健康保険病院	当院では平成28年度に病床数を96床から50床に減らすことにより地域の実情に即した病床数にするとともに、削減分の病床をサービス付高齢者向け住宅に転換する事により、住み慣れた地域で安心して暮らし、医療を受けて頂ける地域包括ケアシステム構築を進めます。また、町内開業医との連携による開放型病棟や救急医療を維持します。	平成28年度に病床削減及びサービス付き高齢者向け住宅の整備は実施済み。これまで培ってきた病診連携や病病連携をベースとしながら、中空知圏域の医療機関との連携を促進し、慢性期医療の受け皿としての役割を意識しながら、プランに基づき平成30年度に一般病床(18床)を療養病床へ転換し、50床全てを療養病床とした。経営改善に向けては、診療材料の共同購入への参加や各種契約単価等の見直しによる費用の縮減、職員のレベルアップによる収益の安定確保に向けた取り組みなどを継続して進めている。

(3)「公的医療機関等2025プラン」の進捗状況(中空知構想区域には該当医療機関なし)

病 院 名	プランの概要	プランの進捗状況

(4)二次医療圏を越えた広域的な協議

開催日	協議の相手方	協議事項	協議の結果

(5) 圏域内のすべての医療機関(病院及び有床診療所)の参画又は情報共有に係る取組

区 分	対 応 内 容
調整会議(親会・部会)に参加	地域医療構想調整会議に医療機関(病院及び有床診療所)が参画し、地域医療構想推進シート作成、新公立病院改革プランについて情報共有
説明会の開催(情報共有)	調整会議において情報共有
その他	

(6) 病床機能報告制度に係る取組

区 分	目 的 等	調整会議への報告、議論の状況
未報告医療機関の解消	医療法に基づく報告義務に関する周知	保健所から未報告医療機関に通知
病棟の医療機能(病床機能報告の報告内容)の取れん	病棟の医療機能が毎年変化することのないよう周知	現状において特になし
6年後又は2025年に向けて、過剰な医療機能に転換を予定する医療機関への対応	構想の推進に支障のある病床転換を行わないよう周知	市立芦別病院が慢性期9床増床(31床→40床)する計画を検討(平成30年度意向調査)

8 本年度の取組に関する評価(課題)及び今後の方向性

区 分	評 価 (課 題)	今後の方向性
将来的に不足する医療機能の確保	あかびら市立病院が急性期病床60床のうち12床を回復期病床(地域包括ケア病床)に転換(平成30年4月)。さらに1床を転換し計13床とした(平成30年10月)。	2025年における各機能区分ごとの必要病床数に基づき、病床機能の分化に向けた協議を進め、切れ目なく円滑に患者の状態に応じた医療が提供できるバランスの取れた医療体制を構築する。
医療機関の再編・ネットワーク化	・医師派遣を通じた医療機関の連携。 (砂川市立病院:4病院、滝川市立病院:2病院、平岸病院:1病院) ・開放型病棟による病診連携。 (奈井江町立国民健康保険病院)	中核的な医療機関が中心となって地域連携クリティカルパスの活用、かかりつけ医制度や医療機関相互の医師派遣等の促進を図る。
ICTを活用した地域医療ネットワークの構築	平成30年度から滝川市医師会によるネットワークシステムが稼働している。	基金を活用し参加医療機関の拡充を図ることで、二次医療圏全体のネットワークを整備する。
非稼働病床(病棟)への対応	・平成30年5月に医療法人社団久保会久保会医院の非稼働病床19床廃止。 ・芦別市は市立芦別病院の経営見直しへ検討委員会設置が予定(平成31年)され、病床数についても検討の予定。 ・非稼働病床140床(平成30年)の活用・転換が課題。	病床の転換等について検討する。
在宅医療等の確保	・在宅医療を担う医療従事者が不足している。 ・一般社団法人滝川市医師会が在宅医療グループ診療運営事業を実施。 ・診療用ポータブル機器等整備事業を活用し、医療法人社団そらち乳腺・肛門外科クリニック(ポータブル心電計)、医療法人北武会野口病院(セントラルモニタ)が機器導入。 ・砂川市立病院が在宅医療推進事業を活用し、指定訪問看護ステーション開設。	地域医療構想調整会議等で、医療従事者の不足や気象条件など地域の実情に応じた在宅医療のあり方を検討するとともに、基金等を活用して在宅医療等の確保・充実を図る。
地域における取組(高齢者の住まいの確保等)	奈井江町立国民健康保険病院において、一般病床、療養病床からサービス付き高齢者向け住宅への転換。	基金を活用し、介護医療院、サービス付き高齢者向け住宅等への機能転換等により整備を図る。
地域住民への広報活動	・道が作成した「北海道地域医療構想リーフレット」を、住民周知用として市町、医療機関等に配付。 ・ホームページへ中空知地域医療構想調整会議の資料等の掲載。	今後は、地域の協議を進める中で、市町等広報誌への啓発を検討する。
新公立病院改革プランの進捗	調整会議において、6自治体病院より新公立病院改革プランの内容について説明。	進捗管理の状況について情報共有を図る。
公的医療機関等2025プランの進捗	中空知構想区域には該当医療機関なし。	
二次医療圏を越えた広域的な協議	他圏域から患者を受け入れているが、退院調整に苦慮するケースが多い。	他圏域からの患者の流入に関し、二次医療圏を越えた協議について検討する必要がある。
全医療機関参加型の調整会議の運営等	一般病床、療養病床を有する医療機関に対し、調整会議に参画を求めているが、一部の医療機関が参加していない。	今後も一般病床、療養病床を有する医療機関に参画を求める。
病床機能報告制度に係る取組	対象医療機関の全てから報告が有るが、病棟単位で医療機能を選択するため、必ずしも実態が把握はされていない。	引き続き、全ての医療機関に期限内の報告を要請する。

年度	平成30年度
区域名	中空知

構想区域内における医療機関の対応方針

No.	区分		医療機関名	所在市町村	2025年に持つべき医療機能ごとの病床数(許可病床ベース)															2025年を見据えた役割(H30意向調査)				
	病院	診療所			H28年7月1日時点(H28病床機能報告)					2025年(H30意向調査)					増減									
					高度急性期	急性期	回復期	慢性期	その他	計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	その他	計	高度急性期	急性期	回復期		慢性期	その他	計	
1	○		市立芦別病院	芦別市		98床		31床		129床		60床		40床		100床	0床	▲38床	0床	9床	0床	▲29床	②	
2	○		医療法人北武会 野口病院	芦別市				80床		80床				80床		80床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	④	
3	○		あかびら市立病院	赤平市		60床		60床		120床		60床		60床		120床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	③	
4	○		平岸病院	赤平市				42床		42床				42床		42床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	④	
5	○		医療法人圭仁会 佐藤病院	滝川市				36床		36床				36床		36床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	③	
6	○		医療法人優仁会 若葉台病院	滝川市				204床		204床				204床		204床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	④	
7	○		医療法人翔陽会 滝川脳神経外科病院	滝川市		38床	60床	34床		132床		38床	60床	34床		132床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	②	
8	○		神部ペインクリニック・内科病院	滝川市		43床				43床				43床	43床	0床	▲43床	0床	0床	43床	0床		①～⑤に該当しない	
9	○		滝川市立病院	滝川市		225床	45床			270床		225床	45床		270床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	①	
10	○		砂川市立病院	砂川市	26床	338床	44床			408床	26床	338床	44床		408床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	①	
11	○		歌志内市立病院	歌志内市				60床		60床				60床		60床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	④	
12	○		奈井江町立国民健康保険病院	奈井江町				50床		50床				50床		50床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	④	
13	○		空知中央病院	新十津川町				200床		200床				200床		200床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	④	
14	○		新雨竜第一病院	雨竜町				108床		108床				108床		108床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	④	
15		○	勤医協芦別平和診療所	芦別市		19床				19床		19床			19床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	⑤	
16		○	医療法人圭仁会 佐藤医院	滝川市				19床		19床				19床		19床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	③	
17		○	医療法人社団 近藤医院	滝川市		10床				10床		10床			10床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	①～⑤に該当しない	
18		○	医療法人社団久保会 久保会医院	滝川市					19床	19床					0床	0床	0床	0床	0床	▲19床	▲19床		H30.5病床廃止	
19		○	医療法人社団 そらち乳腺・肛門外科クリニック	滝川市								15床			15床	0床	15床	0床	0床	0床	0床	15床	②	
20		○	医療法人社団 たきかわ産科婦人科クリニック	滝川市								3床			3床	0床	3床	0床	0床	0床	0床	3床	②	
21		○	小林産科婦人科医院	砂川市											0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	①～⑤に該当しない	
22		○	浦臼町立診療所	浦臼町					19床	19床				19床	19床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	①～⑤に該当しない	
23		○	医療法人社団和漢全人会 花月クリニック	新十津川町			19床			19床			19床		19床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	⑤	
24			その他未報告等の医療機関						30床	30床					0床	0床	0床	0床	0床	▲30床	▲30床			
計						26床	831床	168床	924床	68床	2,017床	26床	768床	168床	933床	62床	1,957床	0床	-63床	0床	9床	-6床	-60床	

※「2025年を見据えた役割」について、番号が示す内容は以下のとおり。(当該医療機関の主たる役割に最も近い記述を1つ選択)

- ①: 救急患者の受入れや手術など、高度・専門医療を中心とした急性期医療を担う
- ②: 近隣の高度・専門医療を提供する医療機関と連携しつつ、救急患者の初期対応や比較的症状が軽い患者に対する入院医療等の急性期医療を担う
- ③: 近隣の高度・専門医療を提供する医療機関と連携しつつ、急性期経過後のリハビリテーションを担う
- ④: 長期にわたり療養が必要な患者に対する入院医療を担う
- ⑤: かかりつけ医としての役割や在宅医療における中心的な役割を担う